

研究成果の紹介

温暖地におけるブロッコリーの秋まき4月収穫作型の確立

ブロッコリーの端境期となる4月出荷の作型として、晩生品種「晩緑99W」「晩緑100」を用い、9月下旬に播種、10月下旬に定植することで4月上～中旬の収穫が可能である。

内容

ブロッコリーは、栄養価に優れる緑黄色野菜として人気が高く、周年安定した需要が見込まれる。その中でも、露地栽培において、4月は冬どり作型と初夏どり作型との端境期となり、出荷量が少なく、価格も堅調である。

そこで、淡路地域において、4月収穫に適した秋まきの品種、作型について検討した。

種苗各社の晩生品種を供試した9月中旬播種3月収穫作型の比較では、「晩緑100」の収穫時期が最も遅く、次いで数日違いで「晩緑99W」となり、これら2品種が最も晩生の品種であった(表1)。また、「晩緑99W」を用い、9月15日、25日、10月5日に播種した作型試験では、収穫期がそれぞれ3月23日、29日、4月1日となった(データ略)。播種期が早いほど株の生長量が大きく、花蕾も大きくなったが、収穫時期も前進するため、

表1 秋まきブロッコリー品種の収穫日と収量

品種	収穫日 (月/日)	花蕾重 (g)	花蕾高 (cm)	花蕾径 (cm)
エンデパー	3/15	252	5.3	7.8
ビッグドーム	3/15	282	7.5	11.2
メガドーム	3/15	316	6.9	11.0
ひさ緑3号	3/15	327	7.8	11.6
のぞみ424	3/15	327	6.4	11.7
ゆめ624	3/15	245	6.4	10.2
みよ緑3号	3/15	320	8.0	11.0
ほがらか	3/15	353	7.6	11.2
晩緑99W	3/27	221	7.3	10.4
晩緑100	4/1	259	8.1	12.1

作型は2012年9月13日播種、10月15日定植。
育苗は無加温ガラス温室にて128穴セルトレイ使用。

4月収穫を狙った播種期としては9月下旬が適すると考えられた。

9月下旬播種の作型により収穫期、収量性、品質を検討した結果、花蕾のボリュームは一般的な冬どり作型のものと比べやや劣るものの概ね4月上中旬に収穫が可能であった(表2)。

播種からの日平均積算温度が概ね2000℃を超えると収穫に至ったが、このうち2～3月の積算温度が400℃を超える暖春の年では、収穫が前進する傾向にあり(データ略)、収穫時期の年次差の原因と考えられた。

また、不織布のべたがけ被覆により、収穫は被覆なしと比べ数日前進したが、花蕾のボリュームアップにつながった(データ略)。特にこの作型では越冬中にヒヨドリの被害を受けやすいため、鳥害対策と兼ねたべたがけ被覆が有効である。

普及上の留意事項

淡路と同様に積雪や降霜の少ない県内地域にも、各地域の気象データと日平均積算温度から播種期の目安を設定できる。

西野 勝 (農産園芸部)

(問い合わせ先 電話: 0790-47-2423)

表2 ブロッコリー9月下旬播種作型の収穫日と収量

品種	収穫日 (月/日)	花蕾重 (g)	花蕾高 (cm)	花蕾径 (cm)
晩緑99W	4/12	355	9.1	12.3
晩緑100	4/12	364	8.8	12.1

作型は2010年9月25日播種、10月25日定植。
育苗は無加温ガラス温室にて128穴セルトレイ使用。